

※ 本リリースは国土交通記者会・交通運輸記者会に配布しております。

平成 30 年 3 月 28 日

理事長 松山 良一

## 平成 29 年度下期 MICE アンバサダーを 7 名認定！

### ～ 日本の顔として「国際会議開催地 日本」の魅力を PR ～

- 平成 29 年度下期の募集にて MICE アンバサダーを新たに 7 名認定。
- 平成 25 年に観光庁事業としてプログラムを開始。現在のアンバサダー総数は 55 名。

○この度、日本政府観光局(JNTO)は、新たに以下 7 名の方々を「MICE アンバサダー」として認定しました。

今村 文彦	東北大学 災害科学国際研究所 所長・教授
葛岡 英明	筑波大学 システム情報系 知能機能工学域 教授
沼田 英治	京都大学大学院理学研究科 生物科学専攻 教授
納富 信留	東京大学大学院人文社会系研究科 教授
馬 書根	立命館大学 理工学部 ロボティクス学科 教授
山口 正洋	東北大学大学院工学研究科 電気エネルギーシステム専攻 教授
山極 壽一	日本学術会議 会長 京都大学 総長

※新しく認定されたアンバサダーの方々の詳細については、別紙をご確認ください。

○MICE アンバサダープログラムは、日本国内における国際会議開催の意義に対する理解度の向上、並びに海外における日本のプレゼンス向上、日本の国際会議開催件数の増加を目的としています。

国内外に強い影響力を持つ方々を「MICE アンバサダー」として認定し、それぞれの分野の国際会議誘致活動や日本国内における国際会議開催の意義についての普及・啓発活動に加え、会議開催地としての日本の魅力を海外に向けて発信する広報活動に寄与していただいています。

プログラムは平成 25 年に発足し、現在 55 名が認定されています。

○MICE アンバサダーのご活躍により平成 29 年度に日本への誘致が成功した大型会議には、第 34 回 国際電波科学連合総会(URSI GASS 2023)、第 9 回ポリフェノールと健康国際会議(ICPH2019)、国際脳神経血管内治療学会議(WFITN2021)などがあります。

◆MICE アンバサダープログラム及び現アンバサダーについては以下 URL をご覧ください。

[https://mice.jnto.go.jp/mice\\_amb/index.html](https://mice.jnto.go.jp/mice_amb/index.html)

本件に関するお問い合わせ先 コンベンション誘致部 布施・豊田・安藤

TEL: 03-6691-4852 FAX: 03-6856-1330

Email: [conference\\_ambassador@jnto.go.jp](mailto:conference_ambassador@jnto.go.jp)

【別紙】

◆MICE アンバサダー認定者(平成 29 年度下期)



**今村 文彦(いまむら ふみひこ)**

東北大学 災害科学国際研究所 所長・教授

東日本大震災の発生後、東北大学災害科学国際研究所発足に携わり、2014年4月より所長、現在に至る。現在 IUGG 津波シンポジウムの副委員長を務めている。内閣府中央防災会議専門調査会委員、日本自然災害学会会長などを歴任。防災功労者内閣総理大臣表彰、自然災害学会学術賞など受賞。



**葛岡 英明(くずおか ひであき)**

筑波大学 システム情報系 知能機能工学域 教授

コンピュータを利用した協調作業をさまざまな角度から研究する CSCW (Computer Supported Cooperative Work) 分野で日本を代表する研究者。学会活動も積極的で、ヒューマンインタフェース学会や日本バーチャルリアリティ学会、画像電子学会などで理事等の要職を歴任。ヒューマンインタフェースシンポジウム(2018年9月つくば開催)の大会長を務める。CHI 2008、CHI2015 Honorable Mention Paper など受賞。



**沼田 英治(ぬまた ひではる)**

京都大学大学院理学研究科 生物科学専攻 教授

日本時間生物学会 理事、公益社団法人日本動物学会監事、日本昆虫科学連合第 27 回国際昆虫学会議招致委員会委員長。昆虫の生理学・行動学分野で日本を代表する研究者。国内の学会役員を務めるとともに国際昆虫学会議における唯一の日本人評議員を 6 年間務め、国際的な研究者との人脈を多数築いている。日本動物学会 日本動物学会賞、日本応用動物昆虫学会 日本応用動物昆虫学会賞など受賞。



**納富 信留(のうとみ のぶる)**

東京大学大学院人文社会系研究科 教授

国際プラトン学会(元会長)など海外で研究活動を展開しており、とりわけプラトン(『ポリテイア』『ソフィスト』など)とソフィスト思潮について多数の欧文業績がある。著書に、『The Unity of Plato's Sophist (邦訳『ソフィストと哲学者の間』)、『ソフィストとは誰か?』、『哲学の誕生』、『プラトン 理想国の現在』、『プラトンとの哲学 — 対話篇をよむ』など多数。サントリー学芸賞など受賞。



### 馬 書根(ま しょこん Shugen Ma)

立命館大学 理工学部 ロボティクス学科 教授

IEEE\*国際会議を含め、多くの学会会議や国際会議の実行委員、プログラム委員として関わっており各国関係者との人脈を築いている。2004年にはロボティクスとバイオメティクスに関する初のIEEE国際会議ROBIOを企画・運営し、ROBIO2010とROBIO2016の実行委員長をも歴任することを通じてROBIOの成功に導いており、国際会議の開催の経験が豊富にある。“環境適応ロボットの設計と制御における貢献”が評価され、2018年IEEEフェローに選出された。ISR2013優秀論文賞、ROBIO2013優秀バイオメティクス論文賞など受賞。



### 山口 正洋(やまぐち まさひろ)

東北大学大学院工学研究科 電気エネルギーシステム専攻 教授

IEEE\*マグネティックス ソサイエティ・総務・財務担当役員(本部)、電気学会基礎・材料・共通部門(A部門)マグネティックス技術委員会・委員長、Intermag2023誘致委員会委員長。高周波マイクロ磁気デバイス・材料に関する国際会議(MMDM2005)やマイクロ波磁気工学に関する国際会議(ICMM2014)などの誘致実績がある。アジア太平洋国際EMC会議論文賞、日本磁気学会論文賞など受賞。



### 山極 壽一(やまぎわ じゅいち)

日本学会会議 会長 京都大学 総長

霊長類学者・人類学者。京都大学理学部卒、同大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学。理学博士。日本モンキーセンター研究員、京都大学霊長類研究所助手等を経て京都大学大学院理学研究科教授。2014年より京都大学総長。2017年より国立大学協会会長、日本学会会議会長も務める。

\*IEEE; The Institute of Electrical and Electronics Engineers (米国電気電子学会)